

【分科会報告会】

総会に先立ち、第一期の分科会活動の報告が開催された。今回は二分科会から、「地方都市中心駅と市街地の関係に関する歴史的考察」「台風被害と防災のあり方について」と題してそれぞれ研究成果が報告された。今後、福井のみならず全国的に問題となってくる題材を取り上げ、REFFらしい報告が行われた。以下に簡単な研究の要旨と議論された内容について掲載する。

【交通分科会】

発表者 三輪 裕一 氏
 講評者 梅田 祐一 氏

「地方都市の中心駅と

市街地の関係に関する歴史的考察」

明治5年の新橋・横浜間の鉄道開通以来、我が国の鉄道は急速に整備が進み、明治29年に福井駅ができた。福井駅の配置は、旧福井城と比較的近接し当時の市街地と郊外地の境界部分の場所が選ばれた。しかし、駅の立地場所は各都市で様々であり、それが各都市のその後の都市形成に大きな影響を及ぼしたと言える。第34期交通分科会では、前年度に引き続き、分析対象地域を増やし、現地調査および資料・文献調査から、①駅設置時における市街地の状況の把握、②拡大した現在の駅と市街地の関係の把握を行い、③上記の①、②で収集したデータから対象地域の類型化を行い駅と市街地の新しい方向性を提案した。

第33期に続き5回の分科会を開催し、9箇所での現地調査を行い、①駅の設置時期、②既存する城の有無、③戦災を経験しているか否か、④人口や⑤面積、⑥駅と市街地との関係の変化、⑦市街地の変遷を図示し、一覧表に整理を行った。今後、調査した各都市の傾向や要因を整理し、人工減少、超高齢化により収縮過程に入る都市の構造、都市システムのあり方を追求する予定である。

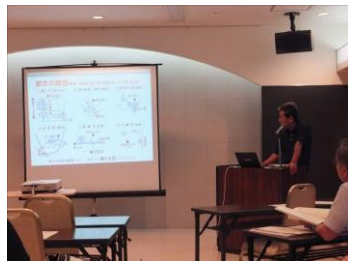
【地象分科会】

発表者 小林 孝彰 氏
 講評者 福 秀則 氏

「台風被害と防災のあり方について」

日本は、昔から多くの台風被害を受けてきた。台風被害は大きく分けて、暴風、大雨、高潮、波浪による被害が上げられる。大雨は浸水被害のほか土砂災害も引き起こす。台風に対する防災を考える場合において、その地理的特徴を捉えることは欠かすことができない。福井県で起こった台風被害として平成25年の台風18号に着目し、その被害状況を、台風の特徴と、被災地域の地域条件を整理し、現地調査や公共の防災システムを踏まえ防災、減災のあり方について検討する。

台風18号により嶺南地方で、浸水被害、山地部の斜面崩壊および土石流災害などが確認された。嶺南地方はリアス式海岸からなるため、道路災害発生時の社会的影響が大きくなりやすい傾向があった。特別警報については発表方法や時期についての更なる見直しが必要だという問題が発生された。土砂災害警戒区域等管理システムについては有用性が確認された。情報の徹底と個人の認識を深めることが重要課題と考える。今後は既存システムの有用性、周知方法などの確認を行っていく予定である。



発表を行う三輪氏



発表を行う小林氏

★入会のおしらせ★ (敬称略)

《入会》

正会員 南 克昌

山田 泰之

賛助会員 堀江 信之

広瀬 広一

田中 甫

山田 貴大

	H26.9
正会員	75
賛助会員	29
計	104

【会費の納入について】

会費の納入をお願いします。

■年会費

正会員 …… 12,000円

賛助会員 …… 3,000円

■会費納入先

《振込みの場合》

ゆうちょ銀行

振替口座 730・3・20396

福井地域環境研究会

※機関紙巻末の振込用紙をご利用ください。

《直接支払う場合》

総会、中間報告会、談話会等開催時、または、左記、財務幹事まで直接お支払いください。

【財務幹事】

〒914-0811

福井県敦賀市中央町1丁目7-36

福井県敦賀土木事務所

福 秀則

TEL 0770-22-4661

Mail h-fuku-n1@pref.fukui.lg.jp